

鮫魚

その質堅硬乾枯たるものは、年を経れども壞れず、經ること久しければ褐色に變ず、漁人肉を食ふことを去らず、只乾腊として玩物に供るのみ、長大なるものは長尺餘なり、上下の長鬣、これをひらけば雨傘の如し、他魚とおなじからずといふ、

龍宮の鶏略圖 或のいへらく、龍宮鶏とは佐渡の方言也、これ鬼頭魚の奇品なるものなり、頭に冠ありて鶏に似たり、横肚に小なる方點高起て、刻鏤る如し、乾枯したるものは堅硬して海馬に似たり、今按ずるに全體その色薄紅にして、火魚の如し、實におこしの種類なるべし、

鉦敲魚略圖 この魚は佐渡のみにあらず、相豆の海中に多かり、或いへらく、魚の形大小一ならず、大なるものは尺許に至るもあり、鱗なし、その色薄黒に青と黄を帶て、光澤あり、横肚は水色の中に薄紅を帶たり、鱗の如し、兩面に黒圓紋あり、この魚脂ありて味美なり、相豆の海中冬春の交、多くこれを獲る、江戸これを的魚といふ、又賀陀比と呼ぶとぞ、

今按ずるに、これ江戸にていふ加々美多比の奇品なるべし、

〔倭名類聚抄十九〕鮫魚 玉篇云、鮫居迄反、漢語抄云、古都乎、本朝式用、乞魚二字、魚名也、

〔箋注倭名類聚抄八〕按備後鞆浦有許都字乎、蓋是小野蘭山曰、許都字、色皂白、口在頷下、小者長四五寸、大者至二丈餘、尾如燕尾、當是寧波府志所載燕尾鯨、錦小路嶧山君曰、燕尾鯨俗呼左賀、

許略中 按乞魚見主計寮式、或作許都魚、乞魚許都魚、並是假借字、源君以爲玉篇鮫字、亦恐屬牽強、

〔類聚名義抄十〕乞魚 コツチ 鮫鮫今正、音、訖魚名、

〔圓珠庵雜記〕鮫 こつをといふは、こつは字の音をは魚の略なり、

〔延喜式五〕月料 乞魚皮十五斤

〔延喜式二十〕凡中男一人輸作物略許都魚皮略中 雜魚腊各二斤、

備前國略中 中男作物略許都魚皮、備中國略中 中男作物略許都魚皮、備後國略中 中男作